

令和五年四月十日 始業式 校長式辞

おはようございます。

進級した皆さんと、元気で再会できましたことを、うれしく思っています。

お盆がある夏休みや、お正月がある冬休みと違い、休むことなく部活動、全国選抜等に出場した皆さんも複数居ました。

その例として、後の伝達表彰にもありますが、石川県で開催された令和四年度第三十八回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会では、ウエイトリフティング部の男子五十五kg級（大会新）と八十一kg級（高校新）でトータル優勝、女子五十五kg級でも高校新でトータル優勝、この他六十七kg級でも6位入賞と、素晴らしい成果を収めています。大変うれしく、光栄に思います。また、海洋科学科の皆さんも、京都大学での発表で、京都新聞に大きく報道され注目されました。

年度の初めにあたり、二点お話しします。

一点目は、聖徳太子のお言葉についてです。

現在の一万円札の肖像は、福沢諭吉氏ですが、来年には、渋沢栄一（しづさわえいち）氏に変更され、発行されるそうではありますが、福沢諭吉氏の前は、聖徳太子でありました。

その、聖徳太子は、今から一千四百年くらい前の政治家で、奈良にある「法隆寺」を建てた人物、また、政治に関わる人々に対し、道徳や心がけを十七条憲法として、書き記しました。

その第一条に、「和をもって尊しとなす」があります。

昨年度、残念ながら、考え方の違いや行き違いから、海洋高校で学ぶ生徒同士で、調和しにくい場面がありました。

「和をもって尊しとなす」は、二つの意味を持つ言葉です。

一つ目は、「和を大切にしない」という意味です。お互いを尊重し、認め合って協力することの大切さを表しています。怒らず・争わず・協力や協調することが尊いことだ、という意味です。

二つ目は、「話し合いを大切にしない」という意味です。争いを避けて和を大切にしないのではなく、お互い妥協せずに納得するまで話し合うことの大切さを表しています。

自身の気持ちや感情を抑えてひたすら我慢したり、相手の気持ちや意見を無視したりすることは「和」ではありません。「和」は妥協や同調ではなく、理解しあって調和・協調するという考え方であります。

学校は、「社会の縮図」と言われることがありますが、社会人になっても、「和をもって尊しとなす」という認識は大切にする必要があります。

令和五年度、どうか、志を同じくして集った仲間が、友人関係で学習や生活に支障が出ないように、「和」を大切に、お互いが高め合ってほしいと思います。

二点目は、京都新聞四月七日（金）の京都新聞の記事についてです。

「京都府北部で、働き手が不足している。」という内容です。記事には、わざわざ外国人従業員を雇われているということでした。水産・海洋関連産業だけでなく、観光関係の仕事も含め、人材不足が生じ、この地域の求人倍率が二倍に達するということです。即ち、求職者数の二倍の働き口があるということです。実は、海洋高校生も、この人材不足に少しでも貢献してもらえないか、という期待ももっています。

是非、課題研究等の探究活動で、地域の魅力を理解するとともに、地域活性化にはどんなことが必要か、研究してもらえればありがたいです。

令和五年度が始まりました。

昨年までは、「新型コロナの感染に注意して」というフレーズが、決まり文句のように出てきましたが、新学期からは、TPO、即ちT：時間、P：場所、Place、O：場合、Occasionに应じますが、マスクの着用についても緩和されています。コロナの扱いが変更される五月八日以降、いよいよアフターコロナの新しい時代に進んでいきそうです。

コロナの経験で得られた知恵を、糧と考え、学校での学習活動や日常生活が、コロナ前より、良い方向に改善できればと思っています。

いよいよ二年生は、所属する各学科・コースでの本格的な授業や実習が始まり、三年生は進路の取組が本格化し、この一学期の成績が、調査書の値となります。二・三年生ともに、明日入学式を迎える下級生たちの上級生としての立場にもなります。年度が終わる来年三月には、「こんな成果があった。」「こんな資格が取れた。」「部活動の試合で入賞」「こんな論文を書けた」など、具体的な成果が出せるよう、お互いが切磋琢磨できましたら幸いです。以上で私からの話は終わります。

令和五年四月十日

京都府立海洋高等学校 校長 上林 秋男